In Honor of Tokuichiro Matsuda (1993), pp. 370–381

場所に関わる「に」「で」

——中国語との対照から——

望　月　圭　子

Iwasaki Linguistic Circle
TOKYO

場所に関わる「に」「で」
——中国語との対照から——

望　月　圭　子

0　まえがき
1　‘場所’に関わる「に」「で」
　1・1　“存放動詞”と「に」
　1・2　「に」と「で」
2　おわりに

0.　まえがき

中国人日本語学習者にとって，最後の最後までマスターできないのは，助詞である．例えば，中国人の某先生は，すでに50年以上日本に滞在し，夫人も日本人で，話される日本語は日本人と全く変わらないようにみえる．しかし，某先生は，日本語で手紙を書かれるときは，助詞の使い方に誤りがないかチェックしてもらうのだとおっしゃる．私は，中国人にとっては，動詞・助動詞・形容詞・形容動詞などの活用のほうが，助詞よりも難しいのではないかと考えていた．なぜなら，孤立語である中国語には活用が存在しないからである．一方，助詞に相当するものは，中国語にもある．それ故，助詞よりも活用のほうが難しいのではないかと考えていたのである．しかし，日本語の活用変化には一定の規則性があるのに対して，助詞の用法に関する規則性は，未だに解明されていない部分が多いので，助詞の習得のほうが難しいのではないかと思うようになった．

本稿は，日本語の格助詞のうち，場所に関わる「に」「で」をとりあげ，その機能が中国語ではどのように表されているのか，或いは表されていないのかについて考察し，中国語を母語とする学習者に対する効果的な教育法を開発するための基礎研究の第一歩をめざすものである．

1.　‘場所’に関わる「に」「で」

中国人学習者がなかなか習得できない日本語の格助詞として，まず筆頭にあげられるものに，「に」「で」がある．以下，この二つの助詞が‘場所’を

示している場合について，中国語の表現がどのようになっているかを検討していこう．

1.1 “存放動詞”と「に」

まず，“存放動詞”という中国語の術語について説明しておこう．これは，湯(1992)に見られるもので，“存”は<存在する>，“放”は<置く>という意味である．一言で言えば，場所を表す名詞を義務的に必要とする動詞といえよう．どういう動詞が義務的に場所を表す名詞を必要とするかは，中国語，日本語及び英語でも共通性がある．以下に，中国語の“存放動詞”の例文及びそれに対応する日本語・英語の例文を対照させていこう．

(1) a. Ta liu zai fangjian li .
〈彼〉〈留まる〉〈に〉〈部屋〉〈中〉

b. He stayed in the room.

c. 彼は部屋に留まった．

(2) a. Xiaoming ba shu fang zai zhuozi shang.
〈小明〉〈を〉〈本〉〈置く〉〈に〉〈机〉〈うえ〉

b. John put the book on the desk.

c. 太郎は本を机のうえにおいた．

(3) a. Zhuozi shang you yiben shu.
〈机〉〈うえ〉〈ある〉〈一冊〉〈本〉

b. There is a book on the desk.

c. 机のうえに本が一冊ある．

(4) a. Ni de shu zai zhuozi shang.
〈あなた〉〈の〉〈本〉〈ある〉〈机〉〈うえ〉

b. Your book is on the desk.

c. あなたの本は机のうえにあります．

上の四つの例文のうち，下線を引いた部分は，“存放動詞”が必要とする，場所を示す成分である．各文で，下線部分を省略すると，非文あるいは不完全な文となってしまう．さて，“存放動詞”構文について，中国語と日本語を比べてみると，一般的におおむね次のことがいえる．まず，日本語では，“存放動詞”構文において，場所を示す成分は，すべて「に」で示される．一方中国語では，“zai (在)”という介詞を用いることによって場所を表す成分を示す((1)(2)の場合)か，動詞“you (有)”または“zai (在)”を用いた存在構文のなかに無標識のまま場所を表す成分が組み込まれ，それぞれ主語，目的語として働いている((3)(4)の場合)．中国語の“存放動詞”文は，

一般に，次のような語順となる．

I. 介詞“zai”が用いられる場合：(ba 目的語)＋動詞＋zai 場所詞

II. 場所詞が主語(無標識)の位置にある場合：場所詞＋動詞 you＋存在するもの

III. 場所詞が目的語(無標識)の位置にある場合：存在するもの＋動詞 zai＋場所詞

ここで，注意すべき点は，I で，“zai 場所詞”が動詞の後にくるという有標の語順をとっている点である．中国語では，介詞は動詞の前に置かれるのが無標の語順である．結論から言えば，中国語では，有標の語順，即ち“zai 場所詞”が動詞の後に置かれる場合は，日本語では必ず「に」が用いられる．この逆は必ずしも真ではない[1]．一方，次の 1.2 でも後述するように，日本語で「で」が用いられる場合は，中国語では，同じ“zai 場所詞”が，動詞の前に置かれ，場面設定の働きをする．日本語の「に」と「で」は，語彙的には，中国語の介詞“zai”一つにしか対応しないが，実は「に」と「で」の違いを中国語では，“zai”を動詞の前に置くか後に置くかという語順によって区別しているのである．

ところで，“存放動詞”の一つである‘you (有)’に対応する「ある」は常に「に」と共起するわけではない．以下，王忠漢(1986)より例文をあげよう．

(5) a. 教室で試験がある．
b. Jiaoshi li jinxing kaoshi.
〈教室〉〈なか〉〈進行する〉〈試験〉

(6) a. 外で宴会があっても，決して外泊するようなことはなかった．
b. Jishi waimian you yanhui, ye cong bu zaiwaizhusu.
〈たとえ〉〈外〉〈ある〉〈宴会〉〈も〉〈今まで〉〈ない〉〈外泊する〉

(7) a. 交通事故がここである．(引用者注：この日本語は甚だ不自然である．占いの際の予言でもなければ，使われないだろう．

1) 例えば，「この駅に何分間停まるか」「東京に家を買う」「庭に物置を作る」という日本語に対応する中国語では，“zai場所詞”は動詞の前に置かれ，後に置くことはできない．なぜなら，‘動詞＋目的語＋zai 場所詞’という構造は，特別の場合にしか許されないからである．詳しくは，1.2 の例文 (14) (18) (19) を参照されたい．

「ある」を「あった」と過去形にすれば自然な文となる．それは交通事故は偶発的なもので，予測不可能なものであるからだろう．)

(b) Zheli fasheng jiaotong shigu.
〈ここ〉〈発生する〉〈交通〉〈事故〉

上記のような例文では，日本語学習歴5年以上の学習者でも，「に」を用いるという誤用がみられる．なぜなら，「ある」は常に「に」と共起すると覚え込んでいるからである．しかし，上記の例文で用いられている「ある」は“存放動詞”ではない．対応する中国語で＜進行する＞＜発生する＞といった動詞が用いられていることからも示唆されるように，上記例文中の「ある」はある事柄の発生を示し，主体や客体が動作の結果ある場所に静止するということを包含するものではない．よって，日本語教育において，場所に関わる「に」を導入する際には，まず“存放動詞”即ち，場所という意味役割を義務的に必要とする動詞群の提示から始めるべきで，特に誤用の多い「ある」構文では，事柄の発生の「ある」との区別を強調しながら提示するのが効果的だと思われる．

1.2 「に」と「で」

本節では，「に」と「で」の使い分けについて述べたい．まず，次の例文(8)(9)をみてみよう．

(8) 彼は東京に住む． Ta zhu zai Dongjing.
〈彼〉〈住む〉〈に〉 〈東京〉

(9) 彼は東京で働く． Ta zai Dongjing gongzuo.
〈彼〉〈で〉 〈東京〉 〈働く〉

(8)の「住む」は，「住所が東京にある＝存在」を意味するから「に」を用いるのであり，対応する中国語訳でも，「に」に対応する語順，即ち動詞の後に場所詞が置かれる語順がとられている．一方，(9)の「働く」は，存放動詞ではないから「で」を用い，対応する中国語訳でも，「で」に対応する語順，即ち動詞の前に場所詞が置かれる語順がとられ，「働く」という動作の行なわれる場面を設定している．

ところで，「に」と「で」は次のように組み合わせて用いることもできる．

(10) 東京では友達の家に泊まる． Zai Dongjing zhu zai
〈で〉 〈東京〉 〈泊まる〉〈に〉
pengyou jia.
〈友達〉 〈家〉

このような文について，神尾（1980, p. 56f.）は次のように述べている(本稿に合わせるため，表現は変えてある):

> 「に」は述語句の表す動作，出来事，事態などに関する空間的位置の指定を行い，「で」は，述語句を含めた文全体と結びついているため，一定の場所における述語句の表す動作，出来事，事態などの背景となる位置を指定する(主題に類する‘場面提示語 / 句’に相当する—引用者注).「泊まる」という述語句の表す出来事の生じた場所が「友人の家」であり，これが「に」によって表される(動詞「泊まる」が格助詞「に」を要求する—引用者注). 一方，「友達の家に泊まる」という句全体を表す事態が「東京」という背景となる土地で生じたことが「で」によって表される.

神尾はさらに次のようにも述べている.（同上，p. 61）

> したがって，述語句と「に」との意味関係を‘内的位置関係’と呼ぶならば，述語句と「で」の意味関係は‘外的な位置関係’と呼ぶことができよう.

さらに，神尾の説によると，例えば(10)のように，「で」と「に」が共起している場合，「で」をとる場所詞はより広い場所を示し，「に」をとる場所詞は「で」をとる場所詞に含まれる限定された場所を表す. 中国語では，この‘広’対‘狭’という場所詞の対比がやはり語順の違いによって示される. 例えば次の(11)はその例である.

(11) Zai Beijing, wo gen ta zai Yuandong fandian zhu
〈で〉〈北京〉 〈私〉〈と〉〈彼〉〈で〉 〈遠東〉 〈ホテル〉〈泊まる〉
zai yige fangjianli. (範(1982, p. 72)の例文による)
〈に〉〈一つの〉 〈部屋〉
〈北京では，私は彼と極東ホテルで同じ部屋に泊まった〉

(11)からわかることは，介詞“zai”が「に」と「で」の機能を兼用しているが，動詞の前に置かれた“zai”場所詞は「で」に相当し，動詞の後に置かれた“zai”場所詞は「に」に相当するということである. また，(11)中の三つの場所詞は，文頭から文末になるに従って‘広→狭’の場所を表し，その語順を変えることはできない. このことは，日本語の場合についても同様である. 例えば:

(12) ? 同じ部屋に，極東ホテルで，北京で，私と彼は泊まった.

ちなみに，英語では，場所詞の語順が‘狭→広’となる.

(13) I stayed at Hilton Hotel in New York.

しかし，語順という観点ではなく，動詞からの遠近という観点からみれば，日・中・英語とも，動詞の近くに置かれたものは，狭い場所を表し，動詞から遠いものは広い場所を表すという共通点がみられるのは興味深い.

次に王忻(1987)を紹介しながら，「に」と「で」の使い分けについてさらに考察してみたい. 王忻は，動作動詞を述語とする文での場所を表す「に」「で」の使い分けの条件について述べている. 以下，彼の説明を要約して説明したい.

① 広い意味で存在を表すといえる動詞の場合.

a. 静止動作を表す動詞の場合. この動詞群は，意味的に“存放動詞”に最も近い.

(14) 汽車はこの駅に何分停まるか.

Huoche zai zhege chezhan ting jifenzhong?
〈汽車〉〈に〉〈この〉〈駅〉〈停まる〉〈何分間〉

(15) 田舎に住む. Zhu zai xiangxia.
〈住む〉〈に〉〈田舎〉

(16) 山に花が咲く. Hua kai zai shanshang.
〈花〉〈開く〉〈に〉〈山の上〉

(17) 顔にできものができる. Lianshang zhang le ge geda.
〈顔のうえ〉〈できる〉Asp.〈一つの〉〈できもの〉

「停まる」「住む」「咲く」「できる」は，実質的には一種の存在を表すから「に」を使い，「で」は使えない. この場合，動詞の意味が「に」の使用を義務付けており，そしてこの場合の動詞はすべて自動詞である.

b. 動作の影響を受けた状態，あるいは動作の結果の存在を表す動詞の場合. この場合も，存在の一種である.

(18) 彼は東京に土地を買った. Ta zai Dongjing mai le tudi.
〈彼〉〈に〉〈東京〉〈買う〉Asp.〈土地〉

(19) 彼は庭に物置を作った. Ta zai yuanzili jian le kufang.
〈彼〉〈に〉〈庭〉〈建てる〉Asp.〈物置〉

「買う」「作る」は動態動作を表す動詞であって，それ自体は存在と関係がな

いけれども，(18)(19)においては，目的語の「土地」「物置」は動作完了後，それぞれ「東京」「庭」に残存するから，義務的に「に」を使わなければならない．しかし，もし(18)(19)の目的語を(20)(21)のように「机」にするともはや「に」ではなく，「で」を用いなければならない．

(20) 彼は東京で机を買った．Ta zai Dongjing mai le shuzhuo.
〈彼〉〈で〉〈東京〉〈買う〉Asp. 〈机〉

(21) 彼は庭で机を作った．Ta zai yuanzili zuo le zhuozi.
〈彼〉〈で〉〈庭〉〈作る〉Asp. 〈机〉

なぜなら「東京」と「机」の間，及び「庭」と「机」の間には必然的な存在関係がないからである．結局，1.bの場合は，動詞の類及び目的語の類によって，「に」と「で」のいずれを使うかが決定されるのである．

② 話し手が文中のどこに重点を置くかによって決まる場合．
この場合は，「に」も「で」も両方使えるが，どちらを使うかによって，話し手の強調点が異なってくる．

(22) a．ベットに寝る．Shui zai chuangshang.
〈眠る〉〈に〉〈ベット〉

b．ベットで寝る．Zai chuangshang shui.
〈で〉〈ベット〉〈眠る〉

(23) a．庭に木を植えた．Yuanzili zhong le shu.
〈庭〉〈植える〉Asp.〈木〉

b．庭で木を植えている．Zheng zai yuanzili zhong shu.
Asp. 〈で〉〈庭〉〈植える〉〈木〉

(24) a．駅に降りる．Zai chezhan xia che.[2)]
〈に〉〈駅〉〈降りる〉〈電車〉

b．駅で降りる．Zai chezhan xia che.
〈で〉〈駅〉〈降りる〉〈電車〉

(22)～(24)のそれぞれのペアをみると，それぞれの差は「に」を使っているか「で」を使っているかの差だけである．したがって，動詞や目的語の類によって，「に」或いは「で」の選択が行なわれているとはいえない．このような場合には，話し手がどこに重点をおいて発話するかによって，「に」「で」の選択が行なわれるのであり，場所に重点があれば

2) 注1でも述べたように，動詞“xia”の後に目的語“che”が後続している場合には，“zai”場所詞は動詞の後におけない．

「に」を，動作に重点があれば「で」を選択するのである．

以上が王忻の説明の要約である．王忻の説明のうち，② の場合，即ち「に」も「で」も両方用いられるが，話し手が重点を場所に置くか動作に置くかによって使い分けられているという場合について，益岡・田窪 (1987, p. 54) は，(22) と同類の例を挙げ，次のような説明をしている(引用の便宜上，表現を変えてある．中国語訳は引用者によるもの)．

(25) 太郎はベットで寝ていた． Tailang zai chuangshang shui zhe.
〈太郎〉〈で〉〈ベッド〉〈眠る〉 Asp.

「寝る」という動詞は，位置を示す「に」名詞句を義務的にとる動詞ではなく，「に」名詞句を表現しなくても，省略的な文にならない．また「に」でも「で」でもそれほど意味の差はない．この場合，「で」のほうが位置よりも動作の種類を問題とする表現となる．

王忻や益岡・田窪の説をまとめると，話し手が場所に重点をおくと「に」が用いられ，動作の種類に重点をおくと「で」が用いられるということである．しかし，この説明はあまりすっきりしない感がある．以下に挙げる ③ のような筆者の説明のほうが理解しやすいのではないだろうか．

さて，以上の説をふまえたうえで，「に」と「で」の用法の違いをどのように中国語を母語にする学習者に教えればよいかについて考えてみたい．説明すべき点をまとめると，次のようになる．

① まず，大前提として，「に」は，‘主体または客体が存在する場所’という意味関係を動詞ともつのに対し，「で」は‘文全体が表す事態・動作の場面を設定する’という 意味関係を文全体ともつ．

② 動詞の意味によって，主体または客体が存在する場所を必ず表さなくてはならない動詞のグループ，例えば，「ある」「いる」「残る」「置く」「住む」などの“存放動詞”グループは「に」名詞句をとる．この場合，主体または客体が存在する場所は「で」で表すことはできない．また，この場合，中国語では，次のいづれかの文型をとる．

I. 所謂“存現文”: 場所詞が主語あるいは目的語の位置にあり，無標識のまま出現する存在を表す構文．

a. 場所詞(存在する場所)＋動詞“you”＋名詞(存在するもの)

・Zhuozishang you yiben shu.
〈机の上〉〈ある〉〈一冊の〉〈本〉

b. 名詞(存在するもの)＋動詞“zai”＋場所詞(存在する場所)

・Ni de shu zai zhuozishang.
〈あなた〉〈の〉〈本〉〈ある〉〈机の上〉

II. 場所詞が介詞“zai”で表され，しかも動詞の後におかれて主体または客体の存在する場所を表す構文.

a. 場所詞が主体の存在場所を表す場合.

・Ta liu zai fangjian li.
〈彼〉〈留まる〉〈に〉〈部屋〉〈中〉

b. 場所詞が客体の存在場所を表す場合.

・Ta ba shu fang zai zhuozishang.
〈彼〉〈を〉〈本〉〈置く〉〈に〉〈机の上〉

③ 動詞の前に置かれた“zai＋場所詞”は，文全体が表す事態・動作の場面設定の働きをもち，この場合，対応する日本語では，すべて「で」を用いることができる．また，この場合，場所詞が主体または客体の存在する場所とも意味解釈できる場合は，「に」を用いることができる.

a. 場所詞が主体の存在場所とも解釈できる場合.「に」を用いても，「で」を用いても，意味の差はさほどない.

・Huoche zai zhege chezhan ting yifenzhong.
〈汽車〉〈に/で〉〈この〉〈駅〉〈停まる〉〈一分間〉
〈汽車はこの駅に/で一分間停まる〉

・Xiaoming zai chuangshang shui zhe.
〈小明〉〈に/で〉〈ベッド〉〈眠る〉Asp.
〈小明はベットに/で寝ている〉

b. 場所詞が客体の存在場所とも解釈できる場合.「に」を用いると客体の存在場所という意味を担い，「で」を用いると動作が行なわれる場所という意味を担う.

・Ta zai Dongjing mai le tudi.
〈彼〉〈に/で〉〈東京〉〈買う〉Asp.〈土地〉
〈彼は東京に/で土地を買った〉

・Ta zai yuanzili jian le kufang.
〈彼〉〈に/で〉 〈庭〉 〈建てる〉Asp.〈物置〉
〈彼は庭に/で物置を作った〉

④ 「に」と「で」が共起する場合，「で＋場所詞」は場面設定の働きしかないので複数個つけることができるが，「に＋場所詞」は主体または客体の存在場所を示すのであるから，一つの動詞について一つしかつけられない．また，「に＋場所詞」は「で＋場所詞」よりも狭い範囲を表さなくてはならず，また「で＋場所詞」よりも動詞に近い位置に置かれなければならない．

・ 北京では，極東ホテルで，六人部屋に泊まった．
・*北京では，極東ホテルに，六人部屋に泊まった．
・?六人部屋に，極東ホテルで，北京で，泊まった．

2. おわりに

「に」と「で」の正しい使い分けは，上述の要素以外に，各動詞の語彙的性質を把握することも必要である．例えば，「働く」は「に」をとれないが，「勤める」は「に」をとること，また同様に，「眠る」は「に」をとれないが，「寝る」は「に」をとること，といった同義語間の語彙的性質の相違をも把握しなければならない．即ち，「働く」は単純に「労働」の意味しかもたないので「に」はとれないのに対して，「勤める」はその語彙的性質として，「労働」という意味以外に，「ある組織に従属している」という意味が含まれていること，また「眠る」は単純に「睡眠」の意味しかもたないが，「寝る」は「睡眠」という意味以外に，「ある場所に横たわる」という意味をも含んでいる(それ故，横たわれない場所には「に」が使えず，「電車に寝る」「座席に寝る」とは言えない)といった，「に/で」をめぐって注意すべき動詞を個々に提示することも必要であろう．

また，今回紙面の関係で触れられなかったが，今後の問題として挙げておきたいのは，場所に関わる「を」についてである．例えば，「道を歩く」というような通過する場所を表す場合の「を」は，中国語では「で」と同じく“zai＋場所詞”が動詞の前に置かれる形で表されるため，「を/で」の区別も中国人にはつきにくい．

(26) a．東京の上空で変な飛行機が飛んでいる．
b．東京の上空を変な飛行機が飛んでいる．（寺村 (1982, p. 105) の例文より）

(26) a・bのいづれも，中国語では (27) となる．訳文は王亜新等 (1988, p. 96) による．

(27) Zai Dongjing de shangkong fei zhe yijia
〈を/で〉 〈東京〉 〈の〉 〈上空〉 〈飛ぶ〉 Asp. 〈一機の〉
qiguaide feiji.
〈変な〉 〈飛行機〉

また，よくテレビの特集番組のタイトルにあるような「アフリカを行く」のような例も，アフリカが対象とも，通過点の集合体ともとれ，学習者には理解しづらい用法で，中国語では，「アフリカで旅行する」という構文でしか表せない．今後の課題として，中国語との対照からみた「を」の用法及び「を/で/に」の区別の研究を挙げておきたい．

参考文献

範継淹 (1982)「論介詞短語 “在＋処所”」(『語言研究』第 1 期，71～86 頁，華中工学院出版社)
胡振平・編著 (1986)『日語病句剖析二百例』(上海訳文出版社)
神尾昭雄 (1980)「〈に〉と〈で〉—日本語における空間的位置の表現」(『言語』9 月号，55～63 頁，大修館書店)
小泉保・他編 (1989)『日本語基本動詞用法辞典』(大修館書店)
国立国語研究所 (1951)『現代語の助詞・助動詞—用法と実例』(秀英出版)
国立国語研究所 (1972)『動詞の意味・用法の記述的研究』(秀英出版)
林孝彰・編著 (1989)『新編日語常用助詞手冊』(上海交通出版社)
羅敬仁・編 (1982)『日語助詞概論』(北京出版社)
益岡隆志・田窪行則 (1987)『格助詞(日本語文法セルフ・マスターシリーズ 3)』(くろしお出版)
森田良行 (1988)『日本語の類意表現』(創拓社)
大河内康憲 (1982)「格助詞に対応するもの」(『外国語との対照 I (講座日本語学 10)』，159～176頁，明治書院)
鈴木忍 (1978)『教師用日本語教育ハンドブック ③，文法 I，助詞の諸問題 1』(国際交流基金)

湯廷池(1992)「原則参数語法，対比分析与機器翻訳」(台湾学生書局)
寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味・第1巻』(くろしお出版)
寺村秀夫(1989)「〈に〉と〈で〉」(『日本語文法小事典』193～195頁，大修館書店)
王宏・編著(1980)『日語助詞新探』(上海訳文出版社)
王忻(1987)「関於同表場所的助詞に与で」(『日語学習』1～6号合訂本，1～4頁，商務印書館)
王忠漢(1986)「表示地点的格助詞‘で’和‘に’」(『日語学習与研究』第2号，87～90頁，«日語学習与研究» 雑誌社)
王亜新・他訳(1988)『日語的句法与意義』(外語教学与研究出版社)(寺村(1982)の中国語訳)
王自強・編著(1984)『現代漢語虚詞用法小詞典』(上海辞書出版社)
閻明・編(1985)『日訳漢常見錯句例解』(上海訳文出版社)
張国強(1989)『日語助詞用例』(北京工業大学出版社)
趙福泉・編著(1988)『日語語法疑難辨析』(上海外語教育出版社)
朱万清(1990)『日語助詞的異同(日語自学叢書)』(商務印書館)